レース大好きベスラレーシング

荻原羚大(りょうた)14歳

ベスラレーシングTECH2&YSS

MFJカップJP250第1戦もてぎ 国内クラス優勝

全日本開幕戦、併催のMFJカップJP250の国内クラスは ピンクの車体に黄色い文字でVesrahと書かれたバイクが優勝した ライダーは14歳の荻原羚大。今シーズンIATCに選抜された今期待の中学生 荻原の参戦は、ブレーキの専門メーカー、ベスラが次のステップを踏んだ証だ

写真／赤松　孝、ベスラ

次のステップはJP250で若手育成

もて耐や筑波耐久茶屋など、最近関東のサンデーレースで優勝してるベスラーレーシングチーム。ピンク色のチームカラーがひと際目立つあのチームだ。Vesrah、ベスラはタカラ株式会社のブランドで、主にバイク用のアフターパーツとして販売されている。タカラは創業73年の歴史ある会社で、今ある2輪関連企業の中でも群を抜いて歴史がある。創業以前、戦後まもなくは自転車用のハンドブレーキを開発し、自転車メーカーに納入していた。国内にバイクが普及し始めてからは、バイク用のブレーキシューなどを製造、バイク用ブレーキメーカーとしての地位を確立した。当時、多くのバイクメーカーが国内にある中で、東京発動機、トーハツというメーカーがあった。タカラはこのトーハツのOEMメーカーとして拡大していった。だが1964年、トーハツが2輪事業から撤退、タカラはこのタイミングでベスラブランドを立ち上げて独自路線を進むことにした。いよいよ本格的なバイク用ブレーキメーカーとなったのだ。

ベスラのロードレース活動はアメリカから始まっている。アメリカ人ライダー、マーク・ヤングさんからのアドバイスだ。「ブレーキパッドを売るならば、レースをやった方がいい」という言葉に従い、1997年からWERA全米耐久選手権やAMAのレースにサポート、そしてベスラーレーシングを設立、ヤングさんを中心にレース活動が始まった。その結果、耐久選手権では8回のタイトルを獲得、ベスラブレーキパッドの認知度が大きく高まった。

さて、MFJカップJP250参戦の経緯や、ベスラのレース活動について、タカラの摩擦材部ベスラ販売課の福田隆夫さんにお話を伺った。

「ベスラを海外のブランドだと思っていらっしゃる方も多いようです。レース活動をアメリカでスタートさせたからだと思いますが、純粋な日本の企業です。工場は茨城県の笠間にあります。筑波サーキットやもてぎが比較的近いエリアです」

実は福田さん自身、長くロードレースライダーとし活躍している。直近では2019年、2022年のもて耐優勝や2022年の筑波耐久茶屋での優勝、そして2022年の全日本開幕戦もてぎ、JP250国際クラスでの優勝など、輝かしい成績を上げている。

「弊社会長の田村昭人が大変なレース好きで、78歳の今も公式練習からサーキット入りして、チームを見守っています。今シーズン、荻原羚大選手と縁があり、JP250への参戦を計画しました。レース参戦を、自社パーツの開発や宣伝から、若手の育成というところまで目的を広げました。ベスラからパッドだけでなく、ライダーも育ってくれることを願っています」

荻原の優勝は、ベスラレーシングの次のステップとなる。レース好きな会社が、さらにレースを盛り上げてくれるはずだ。

レーシングパッドVD-XX

サーキット仕様のハイエンドモデル。耐久性、耐熱性に優れ、制動力、コントロール性を高いレベルで融合させた設計がされている。国内だけでなく、アメリカのレースシーンでも人気が高い。VDはメタルパッドの意味

WINパッド

今、とても注目が集まっている『効かないリアパッド』。サーキット走行をつきつめていくと、リアブレーキの効き方が重要になってくる。効き過ぎずに、それでいてきちんと制動してくれるリアパッドがこれ。効きぐあいによって4種類を用意

クラス優勝後の記念撮影。左が田村昭仁会長、その隣が福田隆夫さん。ライダーの両側は両親。お母さんの後ろに、サポートで来てくれた小椋さん

もてぎのJP250パドックで、マシンと商品であるブレーキパッドを展示するベスラーレーシング。ここだけアメリカンな雰囲気が漂っていた